

公開研究会

「コロナ下」での一斉休校

—その時何があったのか

スピーカー

小澤 雅人 (東京都公立中学校校長・東京都中学校校長会前会長)

荒井 英治郎 (信州大学)

コーディネーター

広瀬 裕子 (専修大学)

2020年11月27日(金)

18時から20時

場所 オンライン

参加費無料

☆専修大学社会科学研究所特別研究G

「ポスト・コロナ時代にかけての経済社会の推移」と共催

☆科研費19K02269の助成を受けています。

趣旨

2020年の開始とともに新型コロナウイルスの感染拡大という未知の非常事態に遭遇した政府は、2020年2月27日に全国の学校に一斉休校を要請した。「コロナ下での学校」が本格的に始まった瞬間である。週末にその情報を受けた学校では試行錯誤の対応が始まることになる。

こうした未曾有の事態の中で教育委員会の情報処理と判断、学校への情報伝達、各学

校の対応判断、学校間での情報共有、これらはどのように行われたのか。全国に共通した動きもあれば各地、各学校に独自の対応もあったであろう。

この研究会では、非日常の緊急事態(有事と呼んでもよい)における教育のガバナンスのあり方を考えることを目的として、「コロナ下」での一斉休校が決定されて以後の学校現場で何があったのかを明らかにしていきたい。

参加申し込みはこちらのフォーム又はQRコードから

申し込まれた方に研究会前日にZoom情報をお知らせいたします。

<https://docs.google.com/forms/d/1sE81pRQzLoUWnCij59-5cfnGO40dqO5P3geNZrHozlg/edit>



問い合わせは広瀬まで。hirose(at)isc.senshu-u.ac.jp (atを@に変える)